

2021 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2794000345		
法人名	社会福祉法人 ウエル清光会		
事業所名	グループホーム輝豊苑		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府豊中市上野東2丁目4-47		
自己評価作成日	2021年10月25日	評価結果市町村受理日	2021年12月17日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2794000345-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪
所在地	大阪府大阪市東成区中道3-2-34(JAM森の宮事務所2F)
訪問調査日	2021年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様に召し上っていただいているお食事は、各ユニットの台所で三食とも職員が調理をしています。味付けや調理方法も職員によって違いがありますが、それも味だと考えております。また、毎月季節の食材で、食事レクリエーションをしており、揚げたての天ぷらは利用者様に好評です。自宅でしていた家事など施設でも継続してできるよう支援させていただいております。コロナ禍前は認知症カフェを開催しておりましたが、コロナの影響で開催が難しい状況でしたが、この12月に再開する予定です。地域と密接な関係を構築し地域住民の相談窓口として、地域のお役に立てる施設を目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くには、堀田公園があり、静かな住宅街に位置し、開設から10年を迎えたグループホームです。我が家のような温かいぬくもりのある日常生活を大切にしています。食事は3食とも季節感のある食材の購入から職員が関わり、美味しく楽しく過ごす事を心掛けています。地域交流が制限されていましたが、パワーアップ体操の再開や 12月からは、認知症カフェ、朝市の開催を予定する等、地域との関わりを大切にしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践	毎朝、朝礼にて法人の理念を唱和し全職員が共有しています。またそれとは別にGH輝豊苑独自の理念も掲げ、EVホールへの掲示をしています。常に意識して行動に反映できるように努める。	法人の理念は、毎朝の申し送りの際に唱和して共有に努めています。グループホーム独自の理念は、エレベーターホールに掲げてあり常に笑顔でゆとりある毎日過ごすよう心掛けています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍前は、地域の祭りや施設が主催する秋祭りに地域の方々も参加していただいておりましたが、今年度は実質行なえていない。この10月からパワーアップ体操が再開する事ができた。この12月に認知症カフェと朝市を開催する予定になっており、地域の方と交流を図っていく。	地域との交流として、10月からパワーアップ体操を開催することができました。外部からの講師を招いて行いました。皆さん喜んで参加されました。地域交流の提供について、安全、安心に配慮して行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍前は、事業所連絡会に参加させて頂いたり、運営推進会議を開催して、地域住民の方や民生委員の方に事業所の情報をお伝えしていたが、今年度は11月に管理者変更の短時間での開催のみとなる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年12月に管理者変更のご挨拶をさせていただく。コロナ禍での地域活動の現状報告が、地域包支援センターや民生委員の方からある。	令和2年8月から、コロナ感染予防のため運営推進会議と家族会は中止しています。今後のコロナ禍の状況に応じて開催する予定です。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	通常なら運営推進会議の際には、各関係者へ活動報告や今後の計画について意見交換を行っていたが、今年度は実施できていない。市が開催する事業者連絡会や勉強会等にはオンラインで参加する。	市が開催する事業者連絡会、勉強会にはオンラインで参加し、協力関係を築くように努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内でも虐待防止の勉強会を定期的に行なっている。また外部の研修にも参加し伝達研修を行ない、理解を深めるように取り組んでいる。	定期的に勉強会を開催しています。「身体拘束はしない」また「虐待防止」についても法人全体で取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止委員会を開催している。法人内や外部の研修にて学び実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市が開催する権利擁護の勉強会に参加し、理解を深める。成年後見制度を利用している利用者さまを事例として学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際は、十分に時間を取り書面を確認しながら説明を行ない、質問に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	通常でしたら、運営推進会議や家族会を開催し、施設からの報告と懇親の場として活用していたが、コロナ禍で面会も制限もあり、実施できていない。面会についてのアンケートを取りご家族の意見を反映させる。定期的にご家族様に連絡を取り、ご要望を聞き取り反映させている。	家族にコロナ禍での面会についてアンケート調査をしました。電話・オンラインでの対応など家族の要望を反映できるように対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスを行ない、意見交換を行なっている。また適時、個別面談を実施し、意見や提案を言いやすい環境作りに努めている。毎月のレク担当者が季節に合わせた企画を提案し実施している。	毎月の会議では、職員が意見交換をしています。管理者は、日々の業務の中でも意見を聞き、対応しています。季節のイベントは、担当者が企画提案をして話し合いホームの運営に活かしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、代表者は会議にて管理者やリーダーの意見を聞く機会を持っている。また、個別に目標を設定し外部研修等に参加し成長していける環境作りに努めている。資格取得サポートも行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時に法人の新人研修に参加している。また外部研修に参加や資格取得のための補助金制度など知識の習得を目指す機会や支援を行なっている。代表者は職員の意見を取り入れながら、必要に応じて他施設の見学を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は定期的に情報交換を行っており、管理者、リーダーと情報共有を図っている。地域ネットワークオンライン会議の参加を通じて交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際には、本人や家族の要望や生活歴を聞くなどし、ケアプランに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所時に家族の要望を聞く時間を設けて、ケアプランに反映をさせている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面談の際に、本人から十分にアセスメントをとり、適切に対応をしている。必要に応じ介護保険サービス以外の提案も行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員にはパーセンドセンタードケアについての研修を行ない、利用者様との関係作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑時や相談事、問題が起きた際は、ご家族に連絡し報告している。居室担当者を決めており、些細な事でも報告できる関係性を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で外出や外泊など、今年度はお控えいただいている。可能な限り今まで通院していた病院などは利用できるように支援している。	ご近所の方には、ホームから手紙を届ける事もありますが、コロナ禍の中では電話での対応が主な関わりになります。通院の必要な受診などは継続して利用できるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、DVD体操を利用者様や職員と行なっている。洗濯物やタオル畳みなど、一緒に家事をすることで関わりを深めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、ご家族の事で色いろ相談を受けている。ご家族の立場になって誠意をもって対応をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を可能な限り聞き取りを行なうようにしている。難しい場合は、ご家族や関係者から情報収集を行なうようにしている。日々の関係性で本人の意向を汲み取れるよう努めている。	利用者との日々の会話や表情から、家族とは、電話連絡や手紙などで連絡をして、情報交換と収集を行い、思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際にはご本人やご家族に聞き取りを行ない、日々の生活や支援に活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の記録を活用して、ご利用者の状態把握ができるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の個別記録や朝の申し送り、カンファレンスを通してご本人の状態把握に努めている。ご本人や家族の意向を確認し、他職種と連携を取りケアプランに反映させている。	毎日の申し送り、個別記録、家族の意見を確認し、医療、看護との連携を密にして、現状に応じた介護計画の作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の情報は個別に記録しており、また、居室担当制を導入し担当職員から気づいたことを発信できるようにしている。また、カンファレンスを行ない話しあった内容をケアに反映できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向を可能な限り聞き取りを行なうようにしている。難しい場合は、ご家族や関係者から情報収集を行なうようにしている。日々の関係性で本人の意向を汲み取れるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前から通院している病院などは継続して診ていただく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の選択、主治医以外の病院の受診などは本人と家族の意向に従っている。必要に応じて医療機関への情報提供や手配を行なっている。	主治医による定期往診は月2回、訪問看護ステーションの往診は週2回行っています。急変、緊急事態が生じた場合は主治医又は協力医療機関と速やかに連絡し、24時間連絡可能な体制を整えています。医師、薬剤師、看護師、介護職員がワンチームで健康管理に努め、利用者の健康状態はお便りや電話等で報告しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と医療連携を行なっている。定期訪問を週2回、緊急時など24時間連絡がとれる体制をとっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供を行ない、ご家族の意向を確認しながら、病院と連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時、重度化した場合は主治医をを交えては再度話し合いを持ち、本人・家族の意向に沿ったケアが出来るように支援している。重度化対応・終末期ケア対応指針を作成している。看取りマニュアルを作成し、いつでも確認できるようにしている。	重度化した場合や看取りの指針マニュアルを作成、本人、家族、医師とで話し合い、合意のもと同意書を交わしています。家族への支援についても指針を作成し、共有しています。看取り期には、口腔ケアやクリームを塗るなども行い、コロナ禍の中でも面会やお見送りなどの対応に努めています。管理者は職員の精神的なケアにも取り組み、生活を共にした入居者への思いを大切に支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、職員がいつでも確認できるように設置している。また活用できるように勉強会を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施しており、避難方法や経路などを職員には周知できるようにしている。コロナ前は地域の方への参加も促し、緊急時には地域の協力も仰げるように関係づくりをしていた。食品庫や近隣施設に水や食料など備蓄し備えている。	年2回総合訓練を実施、消火器点検も行い「消防訓練実施報告書」を作成しています。火災・風水害・地震に対する対応マニュアルを作成、対策本部を設置し責任者を定め、協力機関、連携施設との連携方法や支援体制を構築しています。職員、家族の連絡網を作成、随時更新もしています。備蓄品一覧表を作成し消費期限も明記しています。(聞き取りと資料で確認)	災害時の停電対応策として自家発電機の設置も考えられてはいかがでしょうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いや接遇マナーについて、研修をしている。また、パーソン・センタード・ケアについても学んでいる。	個人情報保護法や接遇マナーの研修を実施し、職員間で共有しています。特に新人職員にはコンプライアンスの徹底に努めています。不適切な言動が見られた時は法人の研修担当者の助言を得て尊厳とプライバシーの保護に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自身の思いが話しやすい関係づくりや雰囲気作りに心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの好きなこと、楽しめることを見つけ、スケジュールを組まずに自然に楽しめるような環境づくりを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまで通りに生活を続けていただけるように、ご家族へもご本人が好まれる衣類を持ってきていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に何が食べたいかお聞きし、メニューに反映させている。 盛り付けや片付けなど、職員と一緒にいただいている。	3食共職員が食材を調達し、調理しています。毎朝食には工夫した一品を追加し、メニューに添えています。 庭で採れた新鮮な野菜が食卓にのることもあり、利用者もできる事を手伝っています。調理担当の職員はより豊富なメニューが提供できるよう工夫し、お寿司パーティーの様子をみた家族には、安心をもたらしました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量や水分摂取量を把握し、状態に応じて食事形態を工夫しています。食事量や水分量、体重を個別に記録し、体調管理に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な限り、自身で歯磨き、義歯を洗っていただく様にしている。必要に応じ、歯磨きの仕上げをしている。毎週、歯科衛生士の方が来苑されており助言をもらいながら、個々のペースに合わせて口腔ケアを行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を個別に記録しており、排泄パターンを把握する事で、過剰な排泄用品の使用にならないように努めています。随時、カンファレンスを行ない、適切なケアに繋げている。	排泄記録を記入し、パターンを把握してトイレ誘導を行っています。便秘気味の利用者には医師と相談の上、排便コントロールを行います。個々の排便リズムを大切に食事面も工夫して支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取やマッサージ、毎日のDVD体操を行ない、またヨーグルトやオリゴ糖を提供し、自然排便を促すようにしている。利用者様の排便リズムを把握し、お薬に頼らない支援に努める。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や希望に合わせた入浴支援ができるように努めている。週2回の入浴が基本ですが、本人の体調や希望に応じ柔軟に対応をしている。重度の利用者様には職員2人で対応をしている。入浴剤を使用し楽しんでいただける様にしている。	入浴は通常週2回です。午前と午後を通し、希望の時間帯に入れるように対応しています。手すりや滑り止めマットを敷いて転倒防止に努め、入浴できない時や看取り期の利用者には清拭や足浴などで対応しています。好みの入浴剤を使用し香りも楽しんでいきます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活ペースに合わせたリズムが維持できる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療と連携を図り、薬剤師の指導を受けながら安全に服用できるように支援している。各ユニットには利用者様別にお薬情報をファイルし、直ぐに確認できる整備している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の盛り付けや片付けの手伝い、洗濯物たたみなど、本人の能力に応じた役割を持っていただき、職員と一緒にこなしている。また、家族から本人の興味のある物を持参していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年であれば、近隣の公園やスーパーに買い物など外出をしておりましたが、コロナの影響で外出制限があり行なえていません。1階デイサービスがお休みの日に、敷地内の駐車場を散歩程度しか行えていない。	デイサービスが休みの日にフロアを利用して季節の行事(夏祭り、敬老のお祝い、ハロウィン等)を実施し、利用者も準備から参加します。外出自粛の中、建物や駐車場の周りを散歩し、花壇の花を見たり椅子で一休みするなどして楽しんでいます。庭にイチジクの木があり写生を楽しむ利用者も居ます。気軽にできる体操やゲーム、折り紙などアクティビティを工夫して、楽しく過ごせる支援に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方はお金を所持し、買い物などの際は使用している。コロナの影響で買い物などの外出は行なえていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望に合わせて支援をする。言葉にして意向を伝えられない利用者様には、こちらから家族に連絡し、話す機会を作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットのリビング中央には中庭があり、窓から明るい日差しや風が感じられる。また、家庭菜園の場になっており、収穫した野菜は、利用者様に召しあがっていただいている。絵を描いている利用者様の画材にもなっている。	玄関を入ると絵手紙の作品展が迎えてくれます。ユニットへ通じるエレベーターホールにはソファが置かれ、法人の理念と職員が考えたグループホームの理念が掲げられています。季節のオブジェが壁に飾られたリビングは広く明るい空間で、大きな窓からは日が差し込み中庭を眺めることができます。オープンキッチンでの食事準備を眺め、香りや音を楽しみ、職員の手伝いなどしながら食事を待ちます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームを談笑の場としての活用している。テーブル等の配置を工夫して、利用者様が各々過ごしやすいうに空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、できるだけ馴染みのある家具や物品、位牌なども自由に持参していただけるよう説明している。	各部屋の入り口には大きめの表札が分かりやすく掲げてあり、季節の飾り物が添えられています。ベッド、エアコン、洗面台はホームが用意しますが、利用者は使い慣れた整理ダンスや小物入れ等を持ち込み、安心して暮らしています。窓からは外の景色や外気を感じられます。掃除も行き届き、利用者の安全に配慮した備品の配置に工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の環境整備としては、動線には配慮しながら家具やベッドの配置を工夫している。また、見守りを行ない家事や趣味をしていただける環境づくりに努めている。		